

福岡演習林でのスポットライトセンサスの実施

九州大学福岡演習林 扇 大輔, 大崎 繁, 井上一信, 山内康平, 内海泰弘
榎木 勉, 古賀信也, 薛 孝夫

1. はじめに

近年, 日本各地でニホンジカによる森林被害が増大しており社会問題化しつつある。福岡演習林では今のところシカによる目立った被害は報告されていないが, 目撃情報に加え, 糞や草木への摂食痕などからシカの演習林内での広範な生息が考えられる。

今後発生が懸念される被害に対処するためにシカの生息状況を解明することは極めて重要である。そこで, 福岡演習林内でのシカの個体変動を把握するために 2009 年度よりライトセンサス調査を開始した。ここではその取り組みについて報告する。

2. 調査方法

2009 年春と秋そして 2010 年の春の計 3 回については福岡演習林第 10~11 林班の林道沿いで行い, 2010 年秋以降は第 6~8 林班の林道沿いで行った。

調査では, 車(日産アトラス)を低速(時速約 8km)で走行しながら荷台から道路の両側をスポットライトで照射して, シカの光る目を探す方法で行った。また, 車のヘッドライトをハイビームにして, 前方に出現する個体についても探索した。シカを発見した際には, 肉眼または双眼鏡を用いて可能な限り雌雄の別, 年齢(0 才・1 才・2 才以上)について識別するとともに車両からの距離をレーザー距離計で, 方位をデジタルコンパスでそれぞれ計測した。調査チームは運転・記録・計測各 1 名, ライト 2 名の 5 名編成を基本とし, 技術職員および教員に加え学生の協力も得て行っている。

調査は 3 日反復で行い, 日没後約 30 分で開始した。10~11 林班では東西 2km ルートを約 30 分, 6~8 林班では南北 3km のルートを約 40 分要した。なお, 調査中に他の野生動物を発見した場合でもその種類と発見場所について記録した。

3. 結果と課題

これまで 2010 年・秋の調査時に 8 林班内で雄ジカ 1 頭を確認したほかはシカは発見できなかった。一方, イノシシ, タヌキ, ウサギ, イタチ科の動物などが調査中に確認された。

本調査は, 継続して実施することによりシカの生息状況解明のための基礎資料とすることを目的としているが, 一定期間の結果をもとに調査ルートや調査時間の設定について順次検討を加えたい。

また, 宮崎演習林では 2005 年から, 北海道演習林においては 2008 年からそれぞれニホンジカ, エゾシカを対象にライトセンサス調査を実施している。当演習林での取り組みによって 3 演習林での共通した観測体制が敷かれ, 九州大学演習林でのより質の高い森林情報の蓄積に寄与できると考える。